

# 用語集

行	50音	用語	解説
あ	あ	アクアネット大阪	当企業団と受水市町村で結んでいる水の情報ネットワークのこと。送水運用情報や水質情報などを相互にリアルタイムで交換することにより、限られた水資源の有効活用や水質の向上・安定供給及び市町村サービスの向上を図るとともに、事故災害時には、緊急伝文等のメッセージを送受信することで、緊急時の迅速な対応を支援することを目的としている。
あ	あ	アセットマネジメント(資産管理)	資産(アセット)を効率よく管理・運用(マネジメント)すること。水道事業においては、持続可能な事業を実現するために、中長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する体系化された実践活動を示す。
あ	あ	あんしん給水栓	地震等の災害により水道施設に被害が生じ、給水機能が停止した場合、それらが復旧するまでの間、飲料水・医療用水・消火用水等の緊急時用水を確保し、被災した住民の生命と生活を守るために緊急に使用される給水栓のこと。送水停止中でも使用できるAタイプと、送水中に使用できるBタイプの2種類がある。
あ	い	一日最大給水量	一日給水量のうち年間で最大のもの。
あ	い	一日平均給水量	年間総給水量を年日数で除したもの。
あ	い	一括交付金	正式名称は「地域自主戦略交付金」。国から地方への「ひも付き補助金」を廃止し、地方が自由に使える交付金として平成23年度に創設された。都道府県に加え、24年度からは政令市が交付対象となり、その他の市町村は25年度以降を予定している。
あ	い	インフラ	インフラストラクチャー(infrastructure)の略称。国民福祉の向上と国民経済の発展に必要な公共施設のことで、道路、上下水道、電気、通信などをいう。
あ	え	営業収支比率	通常の事業活動に要する費用を、事業に必要なものとして徴収している給水収益でどの程度賅っているかを示す指標のこと。この比率は、高いほど望ましい。
あ	え	塩水遡上	海水が川を遡る現象のこと。一般に潮の干満で生じるが、津波が河川を遡ることで生じることもある。塩水が浄水場に流入すると塩分を処理できないため、塩水遡上対策は浄水処理上の課題である。
あ	え	塩素処理	浄水処理において、液化塩素、次亜塩素酸ナトリウム、次亜塩素酸カルシウムなどの塩素剤を使用した処理のこと。当企業団の浄水場では、浄水処理の最終工程で殺菌・消毒を目的に次亜塩素酸ナトリウムを用いている。
あ	お	オゾン	オゾン(O <sub>3</sub> )は、フッ素に次ぐ強い酸化力を持ち、殺菌、脱臭、脱色、鉄やマンガンの酸化、フェノール類などの有機物を分解する能力があり、高度浄水処理の工程に使用している。
か	か	外周塀	浄水場、ポンプ場等の敷地境界に設置するフェンス等の構築物のこと。
か	か	階層浄水施設	浄水場は一般に、沈澱、ろ過などの施設が平面的に配置されているが、これらの施設を立体的に一つの建物に収容した施設のこと。当企業団の村野浄水場において、階層浄水施設を導入している。
か	か	河南地域	柏原市、藤井寺市、羽曳野市、大阪狭山市、富田林市、松原市、河内長野市、太子町、河南町、千早赤阪村の計10市町村の給水対象により構成される地域のこと。
か	か	かび臭	水源の植物性プランクトンから産生される異臭味物質(2-メチルイソボルネオール(2-MIB)、ジェオスミン)が原因で生じる臭気。2-MIBとジェオスミンは摂取しても健康に影響はないが、微量でも臭気が感じられるものであり、水質基準項目に設定されている。
か	か	監視制御システム	送水管理センターや浄水場中央監視室から、無線回線や光ケーブル回線を利用して無人施設であるポンプ場や取水場などを遠隔制御するシステムのこと。
か	き	企業債	水道等の地方公営企業の建設改良事業等に充てるため、地方公共団体が起こす地方債のこと。なお、企業債の償還は、当該事業で整備した施設等を用いて得られる料金で賄うことを原則とし、その償還期限は、施設等の耐用年数の範囲内とされている。
か	き	給水区域	水道事業の事業(経営)認可に係る事業計画で定められ、事業計画の目標年次までに水道事業者が一般の需要に応じて給水を行うこととした区域のこと。なお、水道用水供給事業は、水道事業者が水道用水を供給する事業であるため、給水区域の概念は成立しない。
か	き	給水人口	水道事業の事業(経営)認可に係る事業計画の目標年次において、計画給水区域内に居住する人口のうち、当該水道による給水を見込んだ人口のこと。なお、水道用水供給事業は、水道事業者が水道用水を供給する事業であるため、給水人口の概念は成立しない。
か	き	業務指標(PI)	(社)日本水道協会が定めたサービス水準の向上のための規格の一種で、事業者が行っている多方面にわたる業務を定量化し、定義された算定式により評価するもの。
か	く	繰延勘定償却	支出効果が支出の時だけでなく将来にも及ぶ費用(繰延資産)を、その支出の及ぶ期間(償却期間)の各年度に分けて費用計上していく償却費のこと。

# 用語集

行	50音	用語	解説
か	く	クリプトスポリジウム	人や動物の消化管に寄生する病原微生物で、感染すると、腹痛、発熱等を引き起こす。塩素に強く、水道水の消毒程度の塩素濃度ではほとんど死滅しない。除去するには、適切な凝集・沈澱・ろ過処理を行うことが重要である。
か	け	経常収支比率	特別損益を除いた経常的な収支の関係をみる指標のこと。この比率が100以下であることは、経常的な収入が経常的な費用をまかなえない状態を示しており、通常、収支が赤字であることを示す。
か	け	系統連絡管	浄水場の事故などの緊急時において、市町村への水道用水供給停止や給水制限などの影響を最小限にとどめるために、当企業団が所有する3つの浄水場(村野・庭窪・三島)の水を相互に融通できるようにするための連絡管のこと。
か	け	経年化管路	設置されてから相当年数(法定耐用年数)が経過した水道管のこと。当企業団で主に使用しているダクタイル鋳鉄管及び鋼管の法定年数は40年。
か	け	警報信号伝送	ポンプ場や取水場などの異常警報、故障信号を、施設毎に集約した上で無線回線を使用して監視操作場所である送水管理センターや浄水場中央監視室に信号を伝送すること。
か	け	減価償却費	固定資産の減価を費用として、その利用各年度に合理的かつ計画的に負担させる会計上の処理又は手続を減価償却といい、この処理又は手続によって、特定年度の費用とされた固定資産の減価額を減価償却費という。一般的には、固定資産の価値減耗についての費用を種々の方法により各年度に適正に配分し、その収益に対応させて正しい損益計算を可能にするものである。
か	け	減債積立金	企業債の償還に充てるために積み立て、他の用途には使用することができない法定積立金のこと。事業年度末日に企業債を有する地方公営企業は、前事業年度からの繰越欠損金を補てんした後の残額の20分の1を下らない金額を、企業債の額に達するまで減債積立金として積み立てなければならない。減債積立金を使用して借入資本金である企業債を償還した場合には、その減債積立金に相当する金額を自己資本金に組み入れなければならない。ただし、平成23年度決算からは、法令改正により法定積立義務がなくなる。
か	け	原水調整池	浄水処理をする前の取水した水を貯留し、濁水による取水制限時や河川に汚染物質が流れた場合などに、できるだけ断水や汚染水の影響を緩和するために設置する施設のこと。
か	け	建設副産物	建設発生土など建設工事に伴い副次的に得られる物品の総称。具体的には、建設現場に持ち込んで加工した資材の残りや現場内で発生した物の中で、工事中あるいは工事終了後その現場内では使用の見込みがないものをいう。
か	け	減量・廃止負担金制度	受水企業が基本使用水量を減量し、又は工業用水道の使用を廃止する際に、受水企業が減量又は廃止する水量に対し負担金を支払う制度のこと。当企業団の工業用水道事業において導入している。
か	こ	コイセンサー	鯉による原水水質監視システムの愛称。河川より原水を取り入れる取水場に設置し、上流に餌付けした鯉の水槽に原水を流し、有害物質流入時に鯉がとる忌避行動を監視することにより、有害物質の流入をいち早く察知するためのもの。
か	こ	工業用水道事業	人の飲用に適さない工業用の水(水力発電用の水を除く。)を、導管により供給する事業。工業地帯の地下水位の低下に伴う地盤沈下対策や工業の健全な発達等を目的とする。
か	こ	高度浄水処理	通常の浄水処理では十分に対応できない臭気物質、トリハロメタン、合成洗剤などの除去を目的として、通常の処理に追加して行う処理のこと。具体的には、オゾンによる酸化分解処理や粒状活性炭による吸着除去を行う処理、微生物の働きを効率よく利用した生物処理などをいう。
か	こ	コージェネレーション	ガスタービンやディーゼルエンジンで発電する一方、その排熱を利用して動力・温熱・冷熱を取り出し、総合エネルギー効率を高めるエネルギー供給システムの一つ。
さ	さ	サージタンク	管路に異常な圧力が発生した場合、これを和らげるため、管路の途中に設置する容量に余裕を持たせたタンクのこと。当企業団では、磯島取水場と村野浄水場間の管路に設置している。
さ	さ	残留塩素	塩素処理の結果、水中に残留した塩素のこと。残留することで、送水過程で消毒効果が維持される。水中の残存状態により遊離残留塩素と結合残留塩素に区分されるが、いずれも殺菌力を示し、わが国では給水栓水で残留塩素を保持するよう法律により義務づけられている。
さ	し	ジェオスミン	河川の富栄養化によって異常繁殖する植物プランクトンが作るカビ臭物質のこと。ごく少量でもかなりの悪臭を放ち、水1リットルにわずか1億分の1グラム程度含まただけで、カビ臭味をつけると言われている。
さ	し	事業継続計画(BCP)	Business Continuity Planの略称。自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動(事前対策)や緊急時における事業継続の方法、手段(事後対策)などを取り決めておく計画のこと。
さ	し	資産減耗費	固定資産除却費とたな卸資産減耗費に分類される。 固定資産除却費: 固定資産が使用により滅失し、又は機能的に資産本来の使用に耐えられなくなったときに当該固定資産を廃棄した場合、その帳簿価格を除かなければならない。これを除却といい、除却の際にこの固定資産のまだ減価償却費として費用化されていない額を除却費として計上する。 たな卸資産減耗費: たな卸資産を保管しているうちに、破損したり紛失したりして実際の数量が帳簿上と一致しないことや資産としての価値を失うこともありえる。このような場合、実地たな卸によってこれを確認した際に、この一致しない額をたな卸資産減耗費として計上する。

# 用語集

行	50音	用語	解説
さ	し	市場化テスト	国や地方自治体が独占してきた公共サービスを、民と官が対等な立場でサービスの質と価格で競い合い、より優れた方がそのサービスの提供を担うとする制度のこと。
さ	し	市町村水道水質共同検査	当企業団が市町村水道の水質検査を受託する仕組みのこと。市町村水道等の自己水源や水道水の水質検査、及び水処理薬品の検査を実施しており、主な検査項目は、水質基準項目、農薬など水質管理目標設定項目である。
さ	し	実施設計	基本設計図書に基づいて、工事請負者が工事を実施し、工事費明細書を作成するために必要な情報を盛り込んだ、設計図書を作成する業務、又は、細部にわたり細かく設計すること。詳細設計と呼ぶこともある。
さ	し	実証プラント	基礎研究の段階を経た後に、その処理方法等が実際の施設に適用できるかを検証するための中規模の実験装置のこと。
さ	し	臭素酸	臭素酸(BrO <sub>3</sub> )は、動物実験により発がん性が認められている物質で、水質基準項目に設定されている。水中に含まれる臭化物イオンがオゾンと反応してできる副生成物であるため、オゾン処理時の生成抑制が新たな課題となっている。
さ	じ	受水圧発電	水力発電の一種で、受水圧力を利用して発電を行うこと。当企業団では、村野浄水場から郡家ポンプ場に送水する際、途中に高地があり、送水ポンプで高い圧力で送水しているが、再び低地にある郡家ポンプ場に水が届く際には余剰圧力が生じるため、この圧力を利用して発電している。
さ	し	取水暗渠	原水を取り入れるための施設の一部で、地下に埋設され、又は地表にあって蓋(ふた)をした取水のための水路のこと。
さ	し	小水力発電	水力発電のうち、出力が小規模なもの。水流で水車を回転させて発電を行う。
さ	す	水位差発電	水力発電の一種で、水位差を利用して発電を行うこと。当企業団では、村野浄水場階層系浄水施設において、高さ30mのビルに匹敵する建物内で立体的に浄水処理を行っており、この水位差を利用して発電している。
さ	す	水管橋	川や谷を越えて水を運ぶための水道管の橋のこと。水道管単独で架設されたものや、道路橋等に添架されたものがある。
さ	す	水道残渣	河川水から水道水をつくる過程で発生した泥分を集め、加圧脱水して固めたもの。
さ	せ	制水弁	管路内の水の流量を調整したり遮断するための弁のこと。
さ	せ	精度管理	水道では主に水質検査において、正確で信頼性の高い検査結果を得るために、統計学的解析を含めた様々な手法を利用して一連の検査過程を管理すること。
さ	せ	責任水量制	受水者と契約した基本使用水量の全部又は一部を使用しなかった場合であっても、基本使用水量まで使用したものとみなして料金を徴収する制度のこと。全国で大半の水道事業者が採用している料金制度であり、当企業団の工業用水道事業において導入している。
さ	せ	全ベータ放射能	環境試料等の放射能のうち、観測されたベータ線を全て含めたもの。WHO飲料水水質ガイドラインでは、水中の全ベータ放射能が1Bq/Lを超える場合、個々の放射性核種について分析を行い、ガイダンスレベルと比較した上、飲用に適しているか判断するよう手順が定められている。
さ	そ	総合評価制度	公共工事の入札において、価格だけではなく、品質を高めるための新しい技術やノウハウといった価格以外の要素を含めて評価する落札方式のこと。
さ	そ	総トリハロメタン	トリハロメタンとは、浄水処理の過程において、原水中の有機物と消毒のために注入している塩素が反応して生じる消毒副生成物で、健康に影響を及ぼす。その中で特に、クロロホルム、ブロモジクロロメタン、ジブロモクロロメタン、ブロモホルムの4つの合計量を総トリハロメタンと言い、個々の値と合計量が水質基準項目に設定されている。
さ	そ	促進酸化処理	オゾンや過酸化水素、紫外線などを併用することによって、強力な酸化剤であるヒドロキシルラジカルを発生させ、水中の汚染物質を分解除去する方法のこと。
た	た	タイムマネジメント	目標達成に向け時間を有効活用し、仕事を効果的・効率的に進めるための時間管理のこと。
た	た	タイムリープラン契約	7月～9月の3か月間の11時～17時までの昼間において、大口の需要家で一定時間の負荷を調整することにより、電気料金を割引く制度のこと。
た	た	ダウンサイジング	水需要の減少や広域化、技術進歩に伴い、施設更新などの際に施設能力を縮小して施設規模を適正化し、維持管理コストの削減を図ること。
た	た	濁度	水の濁りの度合いを表す指標で、単位は「度」。水道において、原水濁度は浄水処理に大きな影響を与え、浄水管理上の最も重要な指標の一つである。水質基準は「2度以下であること」とされている。

# 用語集

行	50音	用語	解説
た	た	立坑	縦に掘り下げた坑道のこと。シールドトンネルにおけるシールド機の搬入組み立て、セグメントなどの資材等の搬入、掘削土の排出や長大トンネルの分割施工などのために設けられる。
た	た	単一管路	市町村への送水ルートが1本しかない当企業団の水道管路のこと。
た	ち	地域自己水	各市町村が地下水や地域の河川から取水することにより、各自で確保している水源のこと。
た	ち	着水井	浄水場で原水が最初に到達する桝(ます)のこと。浄水処理の水位の基本となり、水質異常時の薬品の注入箇所、複数系統からの原水受水、原水の分配などの機能を持つものもある。
た	ち	鑄鉄管	鉄、炭素(含有量2%以上)、ケイ素からなる鉄合金(鑄鉄)で作られた管のこと。1959年に黒鉛を球状化し、より靱性の強いダクタイル鑄鉄管が規格、製造化されたことにより、現在はほとんど製造されていない。
た	ち	沈澱池	水よりも重い粒子は、静水中やきわめて静かな流れの中では沈降して水と分離する。この原理を利用して、原水を静かに流入させて原水中の粒子を分離する池を、沈澱池または沈澱槽と呼ぶ。
た	つ	継手	部材(水道管等)を結合する手法又はその接合部のこと。
た	て	テレメーター	遠隔地から伝送された測定量を計測・記録する装置のこと。
た	と	特別損失	事業の通常の経営に伴うものでない臨時的な損失、又は、その発生の事実が過去の年度に属する損失のこと。災害損失や土地売却損などが具体的な例である。
な	に	二部料金制	固定費(基本料金)と、変動費(使用量料金)に分かれた料金制のことで、利用者の節減努力が反映される。当企業団の工業用水道事業において導入している。
な	ね	年賦未払金	未払金を分割して、毎年一定額ずつ支払っていくこと。
は	は	バイパス管	本管の破損や老朽管の更新等により、水の供給ができない状態を避けるため、本管と並行して布設し、本管と連絡することにより供給停止とならないように整備する本管のバックアップ管のこと。
は	は	パブリックコメント	行政機関などの意思決定過程において広く国民に素案を公表し、それに対して出された意見・情報を考慮して意思決定を行う制度のこと。
は	ふ	φ(ファイ)	円の直径を表す記号であり、一般的にはmm単位で表す。水道管の直径を表す場合などに用いる。
は	ふ	フィールド試験	新たな取組みに向けて現地で行う影響調査や研究のこと。その過程で抽出された実用上の問題点等を今後の導入に向けた検討に活かすことができる。
は	ふ	プロポーザル方式	主に業務の委託先や建築物の設計者を選定する際に、複数の者に企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定すること。
は	ほ	包括業務委託	受託業者が効果(業務の効率化や費用低減など)を発揮できる関連業務等、複数の業務を一体として委託すること。
は	ほ	ポンプ井	原水、浄水などをポンプで揚水する時、ポンプの安定的な運転のためにポンプの吸い込み側に設置した貯水施設のこと。
ま	ま	前塩素処理	原水中の殺藻や水に溶けている鉄・マンガン等を除去するため、沈澱池の前段で塩素を注入する処理方法のこと。原水中の有機物と塩素が反応し、トリハロメタンが生成するため、高度浄水処理では前塩素処理を取りやめ、有機物を低減させた浄水処理の最終段階で塩素注入が行われる。
ま	ま	膜ろ過	精密ろ過膜、限外ろ過膜、ナノろ過膜などを使用して原水中の不純物質を分離除去し、清澄なる過水を得る浄水方法のこと。
や	ゆ	ゆうきセンサー	揮発性有機物質21成分を自動で連続測定する「原水水質連続監視装置」の愛称。
や	ゆ	有収水量	製造した水量のうち、料金徴収の対象となる水量のこと。
や	よ	用水供給事業	水道用水を作り、水道事業者(市町村)に対してその用水を供給する事業をいう。これに対し、市町村が住民へ直接水を配る事業を水道事業という。

## 用語集

行	50音	用語	解説
ら	ら	ライフサイクルコスト	製品や構造物等について、原材料の採取から製造、使用及び処分に至るライフサイクルにかかる経費のこと。
ら	ら	ライフライン	補給路線という意味で、電気、ガス、水など生活に必要なものを供給するラインのこと。これらに通信や輸送を加える場合もある。
ら	り	利水安全度	水源の開発水量に対し、河川から安定的に取水することのできる水量の度合いをいう。一般的に、ダム等の計画時においては、概ねの安全度を10年に一度程度発生すると予測される渇水に対して安定的な取水ができるようにダムの利水目的の容量を設定する。
ら	り	粒状活性炭	石炭やヤシを蒸し焼きにし炭化させたものを、高温で水蒸気と反応させ賦活化することにより、1グラムあたり約1,000m <sup>2</sup> といった微細で広大な面積の孔をあけた粒状の活性炭のこと。この粒状活性炭を敷きつめた層に通水することにより、水中の色やにおいの成分、微量な有機物質を除去することができる。
ら	る	ループ化	管路事故等による水道水の断・減水の状態を避けるため、ぐるりと輪のように管と管をつなぐこと。また、つないだ管をループ管という。
ら	ろ	老朽化対策	経年変化や物理的变化などにより損なわれた品質や性能を回復するため、施設の更新や延命化を図ること。
ら	ろ	ろ過池	凝集沈澱処理で取り除かれずに残った微細な粒子を、砂やアンストラサイトなどのろ過層を通過させることにより除去する池のこと。緩速ろ過池と急速ろ過池に大別される。緩速ろ過は濁質除去と生物処理の機能を併せ持ち良質な処理水を得られるが、広大な敷地と適切な管理が必要なため、現在は大量の処理と自動運転に適する急速ろ過が一般的である。
英	G	GCMS	ガスクロマトグラフ・質量分析計の略称。有機化合物(特に低分子量成分)の定性・定量を行う分析装置のこと。
英	I	ITV	Industrial Television の略称。防犯・監視のために用いられるテレビシステムのこと。
英	P	PDCAサイクル	事業活動において、Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Act(改善)の4段階の繰り返しにより、業務を継続的に改善する経営管理の手法のこと。
英	P	PFI	Private Finance Initiative(民間資本主導)の略称。公共施設等の建設、維持管理、運営等を、国や地方自治体に代わって、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法のこと。
英	P	pH	水素イオン濃度を簡単な数値で示すための指数で、その濃度の逆数の対数をもって示したものをいう。水質基準では、pH5.8～8.6の範囲でなければならない。なお、pH<7は酸性、pH>7はアルカリ性。
英	V	VE提案制度	Value Engineering(バリューエンジニアリング)提案制度の略称。性能・機能を維持又は向上させつつ、コストダウンを図る方法について、取引先から提案を受け、設計や仕様に織り込み、契約に反映させる制度のこと。